

平成 23 年 2 月 吉日

「流域の森林利用に関する意識調査」にご協力いただいた皆様へ

調査へのご協力のお礼とご報告

拝啓 向春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年 12 月、わたくしども京都大学フィールド科学教育研究センター（フィールド研）の研究プロジェクト『木文化プロジェクト』による「流域の森林利用に関する意識調査」に、ご多忙中にもかかわらずご協力いただきありがとうございますございました。おかげさまで、京都府と高知県の二つの流域から約 620 名の方々にご協力いただくことができました。

この度、アンケートの集計結果が出ましたので、簡単ではございますが一部をご紹介します。また詳細な結果につきましては、順次ホームページ上に掲載していく予定です。なお、ご返送いただいたアンケートにご連絡先をご記入いただいた方々には、本報告書の印刷版をすでにお送りさせていただいております。

今回の調査では、特に森林や森林資源の活用について皆様のお考えをお伺いすることを主な目的としていました。その結果、流域の違いに関わらず、多くの方々が森林や流域環境に高いご関心と、木材活用への意欲的な姿勢をお持ちであることが分かりました。今後はより詳細な分析を行い、研究成果として発表していく予定です。

今後も木文化プロジェクトでは、皆様のご意見をお伺いしながら研究を進めてまいります。私どもの活動に少しでもご関心を持っていただけましたら、今後もお力をお貸しいただければ幸いです。

このたびは、アンケート調査へのご協力、本当にありがとうございます。

敬具

プロジェクトリーダー 柴田 昌三

(フィールド研 副センター長、教授)

お問い合わせは、下記までお願いいたします。

京都大学フィールド科学教育研究センター 森里海連環学プロジェクト支援室

住所 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町（京都大学）

電話 075-753-6434 月・火・水・木 （担当：大川智船）

メール proshien@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ

（木文化プロジェクト） <http://fserc.kyoto-u.ac.jp/proshien/kibunka/index.html>

（フィールド研） <http://fserc.kyoto-u.ac.jp/>



集計結果

はじめに

「流域の森林利用に関する意識調査」にご協力いただきありがとうございました。集計結果の一部をご紹介します。

(※結果は速報値のため、今後修正される可能性があります。詳細版はプロジェクトのホームページに掲載予定です。http://fserc.kyoto-u.ac.jp/proshien/kibunka/index.html)

対象

木文化プロジェクトでは、日本海に向かって注ぐ由良川（京都府）と太平洋に向かって流れる仁淀川（高知県）という2つの対照的な流域を研究対象としています。よって、由良川流域1200世帯、および仁淀川流域1200世帯の合計2400世帯に、アンケート冊子を郵送で配布しました。また、上流の山間部、中下流の農村部、都市部での環境の違いから住民間で自然との関わり方が異なると考えられ、各流域をさらに上流・中流・下流の三つに分け、皆さんのご意見をおうかがいしました。

回収率

総配布数に対する回収率は25.7% (617名) でした。流域別では、由良川流域28.8% (346名)、仁淀川流域22.6% (271名) となりました。

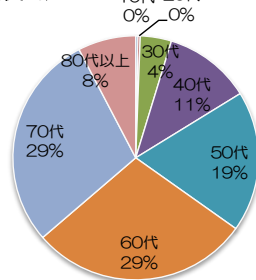
特に、由良川の上流域と下流域では回収率が高くなりました。由良川上流には京都大学フィールド研の芦生研究林があります。何か関係があるのでしょうか…？

地域別回収率

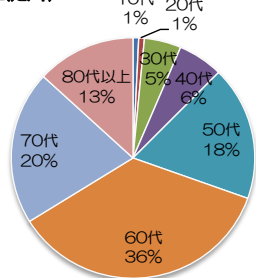
	由良川（京都府）	仁淀川（高知県）
上流	39.8%	23.5%
中流	17.8%	24.3%
下流	32.7%	20.0%
流域別	28.8%	22.6%

回答者の年齢・性別

年齢（由良川）



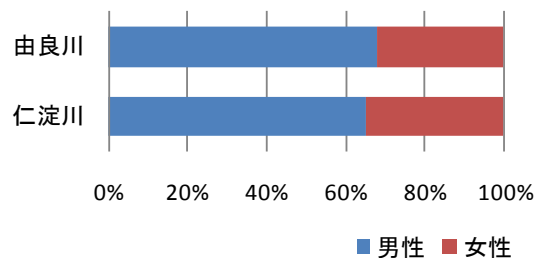
年齢（仁淀川）



回答者の約7割が60代以上の方々でした。また、男性の割合も約7割でした。

今回の調査では、戸単位で調査票を配布し、家族の中のどなたがお答えになっても良いという方式で回答をお願いしました。その結果、回答者が世帯主であることの多い中・高齢の男性に偏ったのではないかと考えられます。

性別



アンケート結果

アンケートの結果から、以下のような5つの興味深いことが分かりましたので、簡単にご説明いたします。

1. 国産材・地域産材への高い関心

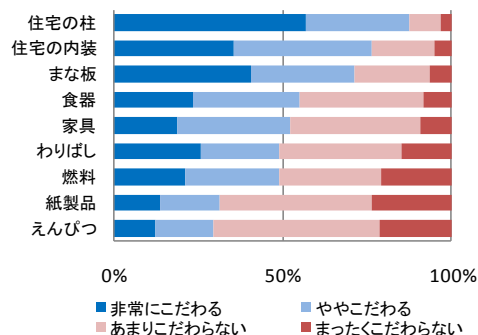
「木材利用に関する質問」より

国産材や地域産材について、流域の違いに関わらず、多くの方が高い関心と活用への意欲をお持ちであることが分かりました。

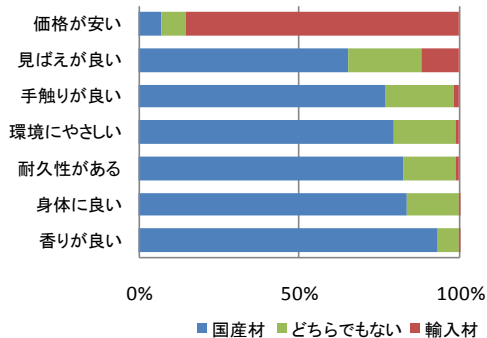
例えば、「木製品を購入する際、国産材が使用されていることにこだわるか」をたずねた質問では、使用期間の長さによってこだわり方が異なる傾向がみられました。(右図)

例えば、「住宅」「まな板」など、比較的長期にわたって使用する製品については、国産材であることに「非常にこだわる」あるいは「ややこだわる」と回答された方が半数を超えました。一方、「紙製品」「えんぴつ」など、消耗品については「あまりこだわらない」「まったくこだわらない」が多くなっています。

製品別 国産材へのこだわり



国産材と輸入材のイメージ



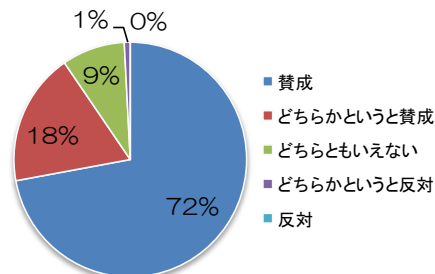
また、「国産材と輸入材のイメージ」についての質問では、国産材は輸入材に比べ「価格が高い」というイメージが非常に強いこと、さらに「香りが良い」「身体に良い」「耐久性がある」「環境にやさしい」といったイメージがあることが分かりました。(左図) こういったイメージが、国産材への信頼感・安心感を支えており、国産材へのこだわりを後押しする一因となっていると考えられます。

「地域産材の地元での活用」についての質問に対しては、約9割の方が「賛成」「どちらか」と回答しました。(右図)

その理由として、「地産地消がよい」、「町おこしによる地域活性化が期待できる」、「地域の気候に適しているため長持ちしそう」といったご意見が多く挙げられました。

また、地域産材を住宅建材として活用してみたいとお考えの方も全体の約9割いっしょり、地域産材に対する意識と期待の高さ、前向きな姿勢がうかがえました。

地域産材の地元での活用について



2. 間伐材は質が劣る？

「木材利用に関する質問」より

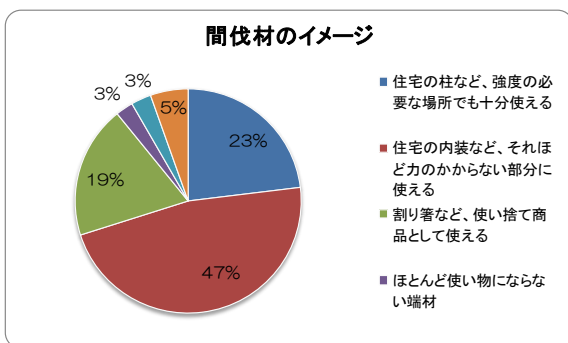
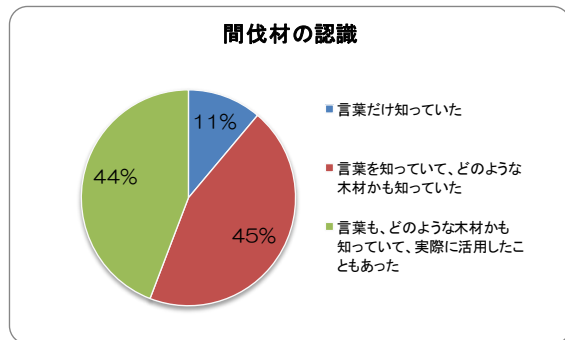
現在わが国で生産される木材の多くが間伐材となっています。

間伐材は本来、木々の成長を助けるために行ういわゆる『間引き作業』で伐り出される木材のことですが、これに対して、最終的に収穫される木材のことを主伐材と呼んでいます。主伐材に比べて間伐材は太さなどで劣ると思われがちですが、近年は主伐材と変わらない太さの木も、間伐という形で伐られることが多くなっています。よって間伐材といえども、立派な材木として使えるものが多くあります。

木文化プロジェクトでは、主に山から伐り出される間伐材を有効利用する仕組みづくりを検討しているため、間伐材に対して皆さんがどのような認識をされているのかを把握するため、このような質問を設けました。

まず、「間伐材」という言葉自体については、9割以上の方がすでにご存じでした。

さらに、間伐材をすでにご存じだった方に、その認識の程度をたずねたところ、約4割の方が、「どのような木材かも知っていた」と回答し、「実際に活用したこともあった」と回答された方も、同じくらいの割合でいらっしゃいました。(右図⇨)



また、間伐材のイメージについては、約半数の方が「住宅の内装など、それほど力のかからない部分に使える」と認識されているようでした。(⇨左図) 次いで「住宅の柱など強度の必要な場所でも十分使える」、「割り箸など、使い捨て商品として使える」となり、やはり『間伐材は主伐材に劣る』というイメージであることが示唆されました。

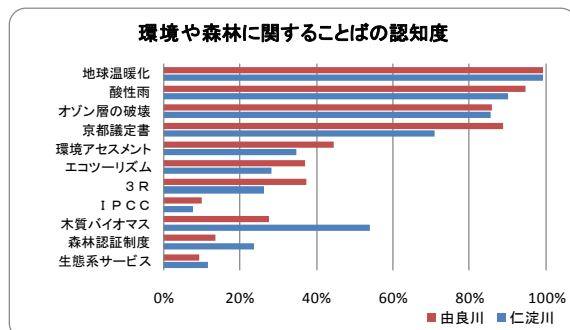
3. 京都は「議定書」、高知は「木質バイオマス」

「森や環境に関する質問」より

森や環境問題に関係の深い言葉11項目の認知度をたずねたところ、「地球温暖化」「酸性雨」「オゾン層の破壊」の3つの用語はほとんどの方がご存じでした。(右図⇨)

興味深いのは、由良川流域では「京都議定書」が、仁淀川流域では「木質バイオマス」がより高い認知度を得ていたことです。

由良川流域が『京都議定書』が結ばれた京都府に位置しているからでしょうか。また、仁淀川周辺では、木質バイオマスを使った、例えば薪ストーブやバイオマス発電などへの取り組みが盛んなのでしょうか。今後調査してみたいと思います。

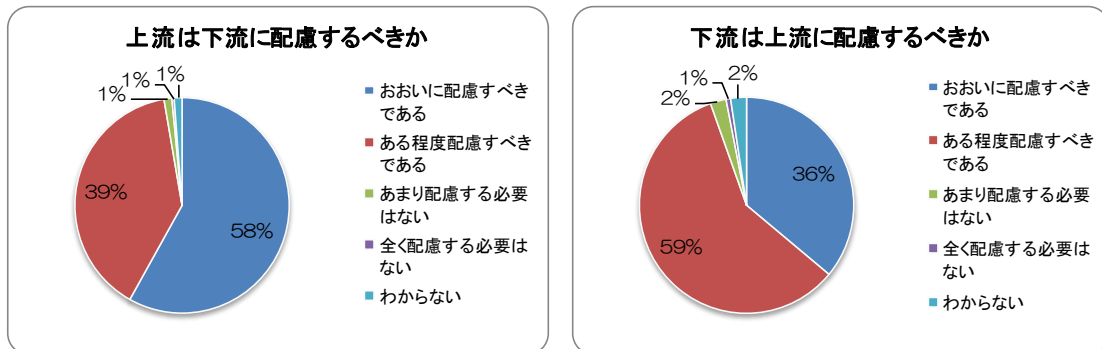


※ %は、各流域における全回答者数のうち、項目を選択した人の割合を表す

4. 上流は下流を、下流は上流を想う

「ライフスタイルや価値観に関する質問」より

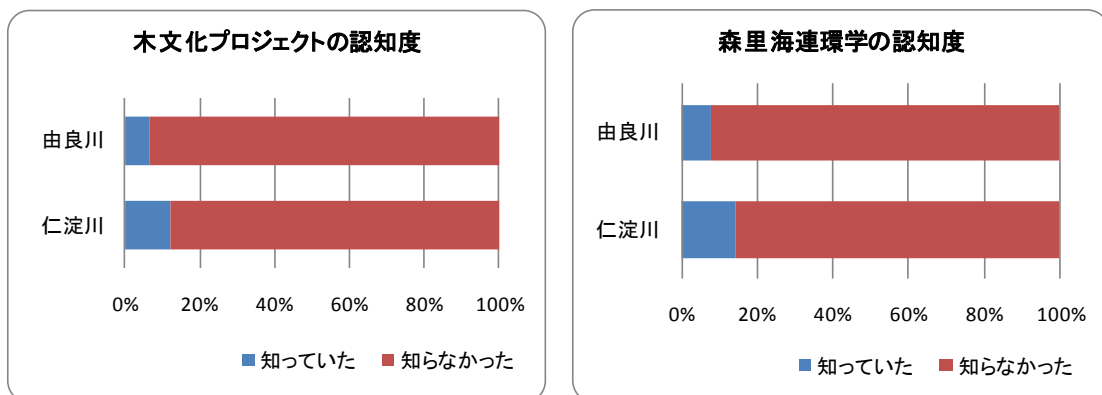
上流と下流の人々がどのような関わり方をすべきかおたずねしたところ、多くの方が、上流の人々は下流の環境保全に、下流の人々は上流の環境を守るためのボランティアや資金提供に「おおいに」あるいは「ある程度」配慮すべきだと回答しました。つまり、森から海まで、川によってつながった1つの地域、『流域』として多くの人がお互いのことを考えていることが分かりました。



5. 木文化プロジェクトって何？

「その他の質問」より

由良川流域、仁淀川流域において、今回のアンケート以前に「木文化プロジェクト」と「森里海連環学」をご存じだったとお答えいただいた方は、全体の1割以下でした。わずかながらでも私どもの活動を知っていただいていたことを嬉しく思う反面、今後ますます頑張らねばと、メンバー一同奮起しているところです。



おわりに

今回のアンケート調査で、仁淀川流域・由良川流域ともに、森林や木材利用に関して、非常に高い関心をお持ちの方々が多数いらっしゃる事が分かりました。また、地域産材の活用や、流域単位での活動に、肯定的なご意見をお持ちの方が多いことも分かりました。ここでは結果をお示ししていませんが、「森での活動への参加意欲」をたずねた質問に対し、「高齢のため難しい」といったご意見や、国産材のイメージとして「人件費やコストが高つくので使いたくても使えない」といった回答もあり、森林を管理することの重要性をよく認識し、また協力する意欲はあっても、高齢化や過疎化の進む現状では適切な森林管理まで手が回らず、という現実があることもうかがえました。